

THPコースを修了して ～行政で働く保健師として思うこと～

犬山市役所 健康推進課（犬山市民健康館）
井戸 陽子

保健師の仕事

とても幅ひろ～い

犬山市に就職して8年

1年目 母子保健担当

母子手帳交付、パパママ教室、赤ちゃん訪問、
4か月・1.6歳・3歳児健診、事後教室
5カ月・10カ月・2歳児健康相談

2～3年目 予防接種担当

集団接種、個別接種

4～5年目 母子保健・予防接種担当

6～8年目 成人保健担当

(現在)

特定保健指導、運動教室、健康相談

健康教育(禁煙教室・金曜サロン・体力チェック)

健康づくりボランティアの育成、精神保健

THP受講
(大学院入学)

これから・・・ 高齢者担当部署(介護保険、介護予防事業)

なぜTHPを受講した？

それは・・・

榊原先生のゼミ生だったから

という事もありますが、

保健師として、専門性を磨きたかったから
幅広く、専門的知識を学びたい

経験に頼って
て
いいの??

科学的根拠が大切なことはわかっているが、現場では、科学的根拠を探すのは、とても困難

参考書は、育児書やインターネット、先輩や他の母親の経験談

例 なかなかオムツがはずせないけど、どうしたらいい？

保健師の仕事は・・・

地域で暮らす人々が より健康になるための活動

自分で自分の(家族・地域)健康づくりに取り組める
ための支援

- ・健康教育
- ・健康相談
- ・訪問
- ・コーディネート
- ・ボランティアの養成
- ・くらしやすい環境づくり

だから、本当は、THPに求められているものは、保健師の仕事

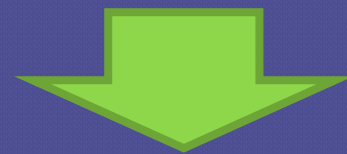
保健師の従事者数

市町村	19,051人(1人当たり 5,298人)
市保健所	7,590人(1人当たり 8,930人)
県保健所	5,058人(1人当たり19,728人)

(平成21年度保健活動領域調査、平成20年3月地域保健・老人保健事業報告)

住民5000人に保健師1人の配置

保健師だけでは、補いきれない・・・



専門性の高い**THP**が必要

地域で暮らす人たちの声

医療機関のかかり方

「病院にかかった方がいいのでしょうか？」

「どこの病院(専門科)に行ったらいいのでしょうか？」

「どこの病院がいいの？」 行政の立場では答えられない

「信用できる病院がない」

相談先がわからない

「がんの告知を受けた時に相談できる場所がなかった」

医師の診察について

病状・薬に関する説明を十分に聞いていない

予防的な視点での関わりが少ない

治療はこれでいいのか？

治療を中断していてもフォローするところがない

THPに期待する役割

○医療機関に関する情報提供

専門医、治療内容、医療機関の特徴、患者からの評判

○相談者として存在すると共に、

対象に必要なかつ適切なコーディネートができる

○医師に代わり、健診結果や病状、内服薬の説明を十分に行い、**予防的な視点**で関わりを持つ人材

THPを発展させるために・・・

◆情報を共有するためのネットワークが必要

多職種だからこそ、様々な視点からの情報が集められる

- 気軽に話ができる関係づくり
- 定期的な情報交換会
- ホームページを充実させる

◆修了生がTHPとして働く環境を整備

THPが行う取り組みを医療制度に組み込む
(補助金制度、保険点数化など)

THPの役割を具体化し、モデルを作る
効果を検証する

THPの講義で学ぶ「経験知」

東大の武藤芳照先生の講義

「最近EBM、EBMと言われるが、EBM (evidence-based medicine: 科学的根拠に基づいた医療) というのは、研究で得られた知見のことではなく、それに加えて、臨床経験“**経験知**”により、**目前の患者一人一人のニーズに合わせた対応ができて初めて成り立つもので、この過程がEBMである。**」

科学的根拠



経験